

診ます会

トピックス

- ・ 済生館の肺癌治療
- ・ 診ます会講演会兼
がん治療研究会開催報告
他



済生館の肺癌治療

呼吸器科科長 有川 卓



わが国の肺癌の増加は著しく、1993年以降癌死亡の第一位は肺癌であり、2000年の死亡数は53700人余に達しています。肺癌は特に予後不良であり、5年生存率は20%以下となっています。救命しうる早い時期での発見とより有効な治療が求められています。

平成1995年から2000年までの6年間に済生館を受診した肺癌患者238例について受診動機により病期や予後について検討してみました。検診で要精検とされて受診した57例のT1、T2、M0症例はそれぞれ33%、35%、73%でしたが、自覚症状などで受診した181例ではそれぞれ10%、13%、49%でした。検診受診の方が早期に受診していたことになります。しかし、5年生存率では両群に差を認められませんでした。1970年代から欧米で肺癌検診の有効性に関する大規模無作為比較試験が行われ、胸部写真・喀痰細胞診による肺癌検診で検診受診群の肺癌死亡の有意な減少を証明しえませんでした。われわれの成績でも肺癌検診は有効とは言えませんでした。

(次頁につづく)

年末年始休診時は休診時患者登録制度をご利用ください

当院では「診ます会」会員限定サービスとして「休診時患者登録制度」を行っております。

「休診時患者登録制度」とは、休診時に病状急変が予想される患者様情報を事前に済生館に登録していただくことにより、急変時に済生館が先生方に代わって対応させていただく制度です。

年末年始休診時にかかわらず、夏季休診時、学会出張などにより休診されるときなどにご活用ください。

なお、登録方法等については次のとおりです。

1. 登録方法

「休診時患者登録用の診療情報提供書(紹介状)」(様式1)をご記入いただき、地域医療連携室までFAX又は郵送していただくようお願いいたします。地域医療連携室から「登録確認表」(様式3)を返信いたします。

2. 患者様への説明

患者様には別紙「患者様説明用紙」(様式2)を(所要事項をご記入の上)お渡しく下さい。急変時には、済生館を受診して下さるようご説明をお願いいたします。

3. その他

登録を受けた患者様が受診された場合には受診報告いたします。受診されなかった場合は特に報告はいたしません。休診期間が経過いたしましたら登録を取り消させていただきます。

登録等の様式は「診ます会」会員の先生方のみ、この会報に同封させていただきました。

しかし早期に発見された肺癌の予後が良好なのは明らかで、A期の5年生存率は80%を超えています。このような早期症例が従来のレントゲン写真で捉えられるのは20~30%だけという成績があります。CTの普及により微小肺癌の発見が増加するものと思われませんが、一部で試みられている低線量CTによる検診の普及が待たれるところです。

一方、腫瘍径が小さいほど確定診断は困難となり、気管支内視鏡の診断限界を超えるものも少なくありません(当院の気管支鏡検査件数は年間約250件です)。肺癌の進行度は腫瘍のサイズだけで決めることは出来ず、サイズが同じでも顕微鏡的に肺胞壁の破壊を伴うようになると極端に予後は悪くなりますので、いたずらに経過観察を続けることはできません。そこで、放射線診断医の協力を得て微小肺癌に対しはCTガイド下に肺生検を行うか、内視鏡手術による肺切除術を行って確定診断を得るようにしています。CTガイド下肺生法は確定診断の精度が高く有力な手段ですが気胸や出血などの合併症が約20%に見られます。

肺癌患者には高齢者やCOPDなどの合併症をもつ例も多く、低侵襲の治療が望まれます。2003年の肺癌入院数は147人を数えますが、肺切除術は悪性腫瘍29例で、うち3例にVATS(胸腔鏡手術)を併用しています(ちなみに良性肺疾患の手術8例は全例VATSによる)。まだ化学療法や放射線療法を適応とする進行癌の症例が多いのが現状であります。

肺癌照射患者数は過去20ヶ月で根治照射65例、姑息照射90例、その他、術後照射や予防照射、術前照射などが合せて10例に上ります。

当院の放射線治療において特筆すべきは定位放射線治療(SRT)が可能なことです。SRTは1回15Gyの照射を3日間行うことで手術と同等の局所制御が可能である上、入院期間は1週間以下で外来での治療も可能であるため患者様には大変喜ばれています。multi-leaf-collimatorや呼吸同期照射も可能で効率的、さらに低侵襲となり、高齢者や肺機能低下例にも適応を拡大しています。21例の原発性肺癌、14例の脳転移症例にSRTを行い良好な結果を得ています。

新たな抗がん剤が導入され生存期間の延長が明らかとなつて、EBMに基づいた化学療法を行っていますが、患者様のQOLを考慮し、外来化学療法を積極的に行っています。

当院では微小肺癌の診断・治療にも対応でき、また高齢者や合併症を有する患者さんに対する低侵襲の治療が可能となっています。



診ます会講演会 兼 がん治療研究会 開催状況報告

過日、御連絡のとおり、去る11月5日当院において、国立がんセンター中央病院 胃科医長 島田安博先生を迎えて「胃癌大腸癌の抗がん剤療法-Q & A」と題して『診ます会講演会』が行われました。診ます会の先生方にも御参加いただき、有意義な会となりました。講演の内容は多岐に渡りましたが、その要約を御報告いたします。



前提

手術不可能な消化器癌患者は、早期診断・根治手術が限界にきていることから今後も減少しない。このため、消化器癌の化学療法は今後も重要な研究課題である。

標準治療とは;誰がどこに行っても均一で最も優れた治療成績を再現性をもって示すことができる治療法である。

最も信頼できる情報源は内外の大規模臨床試験成績である。

胃癌の化学療法

手術不能進行再発胃癌に対する標準化学治療は確立されていない。

推奨される化学療法は、5-fu 単独・トポテシン+プリプラチン・TS-1 単独・TS-1 単独+プリプラチン・5-FU+1-LV である。

術前・術後の化学療法には明らかな有効性は示されていない。

大腸癌の化学療法

手術不能進行再発大腸癌に対する化学療法の効果は確立されている。

日本における標準治療としては

5-FU/1-LV+トポテシン、5-FU/1-LV、UFT/LV 錠 がある。

日本で認可されていない薬剤での検討が既にはじまっている。

動注療法・民間療法に対する評価は定まっていない（無効である）。



以上のような内容について、豊富なデータをもとに講演していただきました。多数の症例にもとづいたデータであり、説得力のある内容でした。今後の当院での化学療法に於いては、これらの知見にもとづき、よりよい治療を目指してゆきたいと考えています。

（報告者 済生館 消化器科科長 菊地義文）



新任医師のご紹介

平成 16 年 10～11 月に新たに済生館に赴任した医師を紹介いたします。

ご指導、ご鞭撻の程宜しくお願いいたします。



矢口 博理（泌尿器科科長）



平成 16 年 11 月から済生館に赴任いたしました、矢口 博理です。私は平成 2 年 3 月に山形大学を卒業し、県内の病院にて一般泌尿器科学を行うとともに、山形大学泌尿器科では主に腎移植を専門にしてきました。山形市立病院済生館は伝統ある地域の基幹病院であり、このような病院に赴任できたことを大変光栄に思っております。全ての患者様に対してより良い医療を提供できるよう努力いたしますので、ご指導、ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

10 月 1 日からは 日沼雄二【神経内科】、松森保彦【脳神経外科】、加賀谷早織【皮膚科】の 3 名が赴任いたしました。よろしくお願いいたします。

齋藤雅昭【前泌尿器科科長】は 10 月 31 日、菅野直人【神経内科】、竹村 直【脳神経外科】、岡田修子【皮膚科】は 9 月 30 日をもちまして済生館を退職しました。お世話になりました。

診ます会講演会のお知らせ

日 時；平成 17 年 1 月 11 日（火） 午後 7 時～

場 所；山形市立病院済生館 4 階大会議室

内 容；医療リスクマネジメントに関すること（最近の医療過誤・刑事事件・民事事件・行政処分・説明義務違反・医療過誤の防止策など）についての講演ですが、正式な演題については後日お知らせいたします。

講 師 弁護士 四宮章夫 先生

そ の 他；上記の内容に関することで、講師にお聞きになりたいことがございましたら、事前に地域医療連携室までご連絡ください。講演の中で取り上げていただきます。

CTの当日検査をご利用ください

当院では7月20日(火)からCTの当日検査をさせて頂いております。急を要し検査が必要な患者様にお役立ていただければ幸いです。

なお、当日検査の際は次のことをご留意お願いいたします。

1. 手続きについて

手続きについては従来と同様です。地域医療連携室にお電話でお申し込まし、FAXで患者様情報等を送信していただきます。

2. 当日予約の受付時間 午前8時30分～午後2時30分頃迄

(ただし、午後3時迄来院できる方に限りです。また、機械点検などでお引き受けできない場合もございますので、あしからず御了承願います。)

3. 患者様へのお願い

造影CTの場合は朝から食事を摂らないでご来院くださるよう患者様にお話してください。

4. ご報告について

郵送にてできるだけ早急にご報告いたします。

済生館への患者様のご紹介について

時間内のご紹介について (月～金 午前8時30分～午後5時迄、地域医療連携室)

ご紹介患者様のご予約、お問い合わせは下記の専用電話をお願いいたします。

Tel 023-626-6516

ご紹介患者様に関する情報の詳細は下記のFaxへご提供をお願いいたします。

Fax 023-626-6517

時間外は救急室をお願い致します(上記以外の時間、救急室)

時間外や救急などに患者様をご紹介していただくときは、下記をお願いいたします。

Tel 023-634-7119 Fax 023-634-7180

日頃の感謝を込めて

例年になく暖かな師走を迎えましたが、医療を取り巻く環境はこれまでに比べ厳しさを増し、更に、山形では新病院が開院し、混沌とした年末です。

済生館においては医師会の先生方の温かい御支援と御指導を賜り、昨年十一月に地域医療支援病院に認定され、ほぼ一年が経過致しました。職員一同、先生方や患者さんの御期待に沿えますように努力して参りましたが、何かと行き届かない点多々ありと存じますので、今後とも御支援御指導の程を宜しくお願い申し上げます。

先生方の在宅医療に少しでもお役に立つことができまますように、休診時登録制度や機器の共同利用制度などを用意致しておりますので是非御利用下さいませよう願います。また、本年度より山形市と共同で介護士の研修会を6回ほど開催し、在宅看護の向上につながればと思っております。

一月十一日(火)には、弁護士の方による医療訴訟に関する診ます会講演会を開催致しますので、御参加いただければ幸いです。

済生館副館長(地域医療連携室長)

平川 秀紀